

帝国少年作品集
ベルファデザインTRC 21

のぼる

〇〇の話

WARNING! THIS IS UNPLEASANT WORK, FICTION, ADULT ONLY.
MINORS, THOSE WHO DISLIKE UNPLEASANT EXPRESSION, DO NOT VIEW.
警告！これは不快な作品,フィクション,成人向けです. 未成年や不快表現が嫌いな方は見ないで下さい.

待ち合わせの話

待ち合わせ場所で知人を待っていた。

ふと横を見ると女性が立っており、自分と同様、誰かを待っている様子だった。

綺麗な女性（ひと）だった…

やってきた知人と朝まで飲んでへさて始発に乗るかゝと待ち合わせ場所を横切ると、驚いた事に女性はまだ立っていた…

次の日、仕事でその前を通り過ぎた。

やはり女性は立っていた…

へああやはりあれは幽霊なのだなゝと思った。



それから数ヶ月後、知人との飲み会で待ち合わせ場所に行くと、花束を持った男性が立っていった。

泣いていた…

以来、その女性を見かけてはいない…

高山国子の話

「ねえ陽子、あなたにいいお話があるんだけど…」

放課後の教室で帰り支度をしていた天津陽子（アマツナヨコ）に、そういつて話を持ちかけてきたのは、クラスメイトの高山国子（タカヤマクニコ）だった。

小学校からの腐れ縁。例え国子の後ろにたたずむ女生徒を見なくとも、声のトーンだけで話の内容を容易に察する事ができた。

「まーたお払いの話でしょう」

「さすが！美人で高い霊力がおありと評判の現役学生巫女様！何も言わなくても内容を察するなんて…素敵！！」

「そんな風におだててもだめよ。お払いの話は家で父が受ける事になってるの。私が学校で受けるわけにはいかないわよ」



「う…でも…もう依頼主に来てもらってるし…ギヤラも貰っちゃったし…」

「だから…それがいけないんだって……」

「なに言ってるの！…将来は家業をついで神主になるんでしょう？今から世の為人の為よく早くて不味い訳ないわ！…」

「まったく…国子、いつもどうやってこれ系の話を探してくるのよ」

「へ、人はね、お金の為ならどんな不可能な事でも可能にするのよ！」

その、さも当然、という口調に呆れたのか、結局陽子はその話を引き受ける事にした。

三人が向かったのは、町外れの廃屋だった。

依頼主によれば、この廃墟で友達と肝試しをしている時、中にあった家具を誤って倒し、壊してしまったらしい。

以来、靈障があり、国子に相談したという。

時の頃は世に言う逢魔時（オウマガドキ）…

西日に照らされた廃屋は不気味な雰囲気漂わせていた…

「ねえ、やっぱり私も行くの？」とガタガタと震えながら国子が囁く。

「何言ってるのよ、国子が始めた事じゃない」

「でも…私が行く必要があるのかしら？」

「あたりまえでしょ、国子だってギヤラの半分貰ってるんだから」

「私の役割は仲介よ！陽子の役割は除霊！」

「大体…国子は昔から霊とか怖いモノ苦手なのに、何でこんな話を受けてくるのよ」

「人はね、お金の為ならどんなに怖い事でも…」

「はいはい、行くわよ」

「もう…！なんで私が……」

ブツブツと文句を言う国子を引きつれ、陽子は屋敷の中へと入っていった。

持参した懐中電灯をつけ、廃屋内を照らす。

中は思いのほか荒れてはおらず、僅かに埃の臭いが鼻を突くだけだった。

しかし巫女である陽子にはこの部屋、というよりもこの廃屋全体に漂う、一種の邪気を感じ取っていた。

そしてその邪気はまっすぐ依頼主へと向けられている…

へ依頼主への強い憎しみを感じる…でも怨霊特有の禍々しさはないようね…

霊そのモノは元々穏やかな性格なのかもしれない…

でも霊にとつて壊された家具は大切なモノだった。それを壊され単に怒っている…もしそうなら…

祝詞を唱える陽子。するとそれに呼応する様に、家全体がガタガタと揺れ始める。

「きゃあああああゝゝゝ！！！！」

突然、国子が叫び声をあげた。悪霊が取り憑いたかの様な絶叫ぶりに陽子は祝詞を中断し国子に駆け寄った。

「国子！大丈夫？！」

「失敗した？！霊の特質を見誤って、霊を取り憑かせてしまったの…？」
あれこれ考えている陽子に震える声で国子は答えた。

「家が…揺れた！！」

「…」

その言葉にあきれ果てる陽子。

「そりやそうよ、霊を呼び出してるんだから…ポルターガイストぐらい起こるわよ」

「陽子…あたし怖い…」

涙ぐむ国子を見無視し、陽子は再び、祝詞を唱えた。

やがて部屋の中央に光り輝く靄（モヤ）の様な物が集まり家が揺れ始める。

靄はどんどんと集まり、輝きを増し、それに比例して揺れも大きくなっていく。

そして輝きと揺れが最高潮に達した時、光は不意に消え、激しく揺れ動いていた家も、ピタ

りと止まる。

瞬間、

「きゃあああああああゝゝゝ！！！！！」

狭い部屋に悲鳴が再びこだまする！

「今度は何よ？！」

「…消えたわ……」

「あたりまえでしょ、除霊しに来たんだから…」

「陽子お〜」

あえぎ、涙ぐむ国子を再び無視し、陽子は依頼主に語りかけた。

「もう大丈夫よ。理解のある霊でよかったわ」

「あの…成功ですか？」

「ええ、これでもうあなたに悪さはしないとわ。でも霊も人間、心変わりする場合もあるから、一応お守り代わりにこの札を持つておいて」

「ありがとうございます！…あの…それで、その札はおいくらですか？」

瞬間、それまでうずくまり震えていた国子がガバツと起き上がる！

「え？いいわよ(笑)別に大したモノでもな……」

「5千円よー！」

鳥居トンネルの話

村には「鳥居トンネル」と呼ばれるトンネルがある。

隣村へと続くトンネルで、出入り口に鳥居がある事がその名の由来となっている。

なんでもトンネルが通るその山は、昔からの神域であり、トンネルの開通と同時に鳥居を設けたのだという。

このトンネル、昔から不気味な言い伝えがある。

トンネルに入るモノをあの世へと導くというのだ。

立地条件から已（ヤ）む無くトンネルを通し、許しを請う為の鳥居を建てたのだが、神域を汚された山ノ神がそれぐらいで許す訳もなく、生贄を欲しているのだという…

そんな崇られたトンネルだが、その崇りと共に、崇りから逃れる方法も伝わっている。



やり方はただ一つ。

鳥居をくぐりトンネルに入ったら、トンネル中央にある小さな社に頭を下げる事。

もし下げずに社を素通りしたら、もう手遅れ。神は出口である鳥居をくぐる事を許さず、入った者はトンネル内を永遠に彷徨（サマヨ）う事になると云われている。

この崇りだが、実際の所、真偽は分かっておらず、中には崇りなど無いとする者もいる。

トンネルは毎日、多くの人が利用しているが、多くの失踪者が出たという話は聞かないし、通る全ての人が頭を下げているとは思えないからだ。

ただ、現在でも年に2、3人、トンネルに入ったのを最後に行方知れずのモノが出ると言う…

鳥居トンネルの話2

鳥居トンネルの中央には《小さな社》が建っているが、この出自はよくわかっていない。

古い文献を調べた者もいるそうだが、社に関係した縁起書などは無く、あるのはトンネル工事の際の記録ぐらいらしい…

それによると、かつて小さな社の丁度真上の山肌に小さな社とは違う《別の社》があつた。

工事の為、その社―別の社を撤去すると、その中には枯れ井戸があり、調査員が井戸を降りていくと《小さな社》があつたのだという…

本殿だと思われていた社―別の社が、《拝殿》であつた事…

そしてその拝殿の中にある井戸の、その奥底に《本殿―小さな社》がある、という事実は、当時の民俗学者や村人を恐れさせた。

とても移動する事はできない、と、そのままの位置に配置したと当時の記録書には書かれて



いる。

実際、社の真上の天井部分には井戸の丸い石垣跡がみてとれる。

そして…これは定かではないが、夜、この社を通ると稀にその穴からドシヤつという《何かが降ってくる音》がするといわれている…

白線の話

友人達と肝試しをする事になった。

場所はその昔、殺人事件があつた廃墟の館。

一人ずつ中に入り、決められた場所に証を残し、最後の者がその証（あかし）を回収してくる、というモノだった。

ジャンケンで順番を決め、初めの一人が館に入っていく。

証を残す場所は鑑識が残した《遺体の場所を指し示す、人型の白線の中》という事になった。

5分程経つた頃、青い顔をして友人が帰ってきた。

「もう帰ろう…」



早口に言う友人に「お化けでも出たのか?」とニヤニヤしながら聞く。

「いや…出なかった…」

「なんだ、つまんね」

「ただ…」

「?」

「…白線が壁にあつたんだ…部屋に入つて…振り返つたら…壁にあつたんだ…」

何か得体の知れない恐ろしさを感じ、我々はその場を離れた…

帝国少年作品集 ベルファダイントRC 21

2025年12月16日第1版第1刷発行

著者、及び発行者 **TEI**

Copyright © TEI 2025 All Rights Reserved.

PRINTED IN JAPAN

◇この作品集は[アナログゲームのルールブック]に見せかけた画集です.[表現方法]や[作品集の構成,編集]は乱雑で,未完成作品も収録されています.

◇この作品集について[複写,または複製][その所持][その公開,配布]を許可します.

◇作品集公開,配布時は次の点に注意してください.[著作権は放棄しない.著作権はTEIに帰属する][著作権がTEI以外の他者に譲渡されない様に扱う][作品集の内容を変えない.作品集全てを一括で公開,配布する.奥付も含める][公開,配布の媒体は問わない]

◇This collection is an art book disguised as an [analog game rulebook]. Its [presentation] and [structure/editing] are disorganized, and it includes unfinished works.

◇Regarding this collection, [copying or reproduction], [possession thereof], and [public display or distribution thereof] are permitted.

◇When publishing or distributing the collection, please note the following:[Copyright is not waived. Copyright belongs to TEI.][Handle it so that copyright is not transferred to anyone other than TEI.][Do not alter the contents of the collection. Publish or distribute the entire collection as a single unit, including the colophon.][The medium of publication or distribution is unrestricted.]

© TEI 2025
BT21.24.24

